



日本社会に根差したウェルビーイングの向上 ②

③ ウェルビーイングとは何か

「次期教育振興基本計画について（答申）」は、ウェルビーイングを次のとおり規定しています。

- ◆ 身体的・精神的・社会的に良い状態にあることをいい、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義などの将来にわたる持続的な幸福を含むもの
- ◆ 個人のみならず、個人を取り巻く場や地域、社会が持続的に良い状態であることを含む包括的な概念



④ なぜウェルビーイングが求められるのか

「次期教育振興基本計画について（答申）」の「参考資料・テータ集」に、次の記述があります。

- 不登校やいじめ、貧困など、コロナ禍や社会構造の変化を背景として、子供たちの抱える困難が多様化・複雑化する中で、一人一人のウェルビーイングの確保が必要であるため。
- 子供・若者に、つながりや達成などからもたらされる自己肯定感を基盤として、主体性や創造力を育み、持続可能な社会の創り手の育成を図る必要があるため。
- 地域における学びを通じて人々のつながりや関わりを作り出し、共感的・協調的な関係性に基づく地域コミュニティの基盤を形成する必要があるため。

OECDの「ラーニング・コンパス 2030（学びの羅針盤 2030）」は、**個人と社会のウェルビーイング**は「**私たちの望む未来**」、**社会のウェルビーイング**は共通の「**目的地**」である、としています。

「徳」を高める

京セラ名誉会長 稲盛和夫
最初から人格ができた人はなかなかいません。初めは闘志むき出しで、才覚と商才に頼っているのですが、一生涯の業であるならば、次のステップとして、「徳」を高めて、“己れ”をつくっていくことが必要です。

出典：稲盛和夫著「心を高める、経営を伸ばす」（PHP研究所）

※ 教育の目標は、人格の完成にあり。教師が徳を高めることは必須のことと言えます。